

追悼文

“がま” こと、宮原豊くんへの追悼

牧野 泉（9組）

昭和 39 年 4 月入学し、配属された 9 組、そこで出会った 43 人の新しい仲間の一人、ひときわ明るく賑やかな少年が宮原君でした。

笑っても声がでかく、とにかく目立っておりました。

何でそんなにでかい声なのか？との疑問からの結論が、“でかい口が起因”と感じ、それをがま口！と決めつけ、ニックネームを“がま”とした記憶があります。

その“がま”との高校時代の思い出は、須川湖へスケートに行ったことです。ある日、突然（須川湖へスケートに行きたい！一緒に連れて行ってくれ！）（えっ？スケートは早朝に現地に行かないとだめだから、青木村田沢からでは無理だよ！）と言ったら、（どんなに早くても行くので、行こうよ！）となって、小生の自宅に早朝 4 時半ころに来て（どなたかに送ってきてもらった）、家で焼き餅を食べてから、須川湖まで徒歩で真っ暗な山道しかも獣道を二人で上って行ったのが思い出です。スケート不慣れな“がま”は、ヨレヨレしながら滑っていたのが、未だに印象にあります。

近年は、関東同窓会 65 期代表幹事として同期会を、そして 9 組のクラス幹事として同級会を積極的に引っ張り、更には著作等々、幅広く精力的に活動してくれていました。しかし、



病には勝てず寂しい結果となってしまったこと、大変残念無念です。

小生なりに、1 月、2 月には回復祈願の願掛けに行って祈っておりましたがむなしく・・・！

“がま”ちゃん ありがとう！お疲れ様でした、ゆっくり休めよ～！ 合掌

3 月 2 日、通夜にて、右から筆者、櫻田、西村、上原、小山



卒後 50 年記念同期会で 9 組仲間と、左から宮原、筆者、保屋野、丸山隆平、赤尾

（2026 年 3 月 8 日）

以上